

中国人の海外育児における『WeChat ママグループ』の役割と問題点

ー日本在住の中国人母親の観点からー

大阪大学大学院 国際公共政策研究科

博士後期課程 1年 張茜樺

※注:「WeChat」は中国語で「微信」であり、騰訊(テンセント)が2011年1月に推出したリアルタイムソフトである。同年4月、海外向けに「WeChat」として展開され、世界中に70を超える国・地域でナンバーワンのソーシャルアプリであるという。「WeChat ママグループ」は簡単に言ったら、「母親たちが入っている『WeChat グループ』」のことであるが、それに対する厳密的な定義がなされていないのは現状である。本研究においては、「グループメンバーは母親、或いは妊婦、妊娠しようとしている方のみ」「主なチャット内容は妊娠・出産・育児関連である」という二つの条件が満たすものを「WeChat ママグループ」として取り扱う。また、中国で暮らしている中国人母親も「WeChat ママグループ」を用いているが、本研究においては、日本在住の中国人母親に用いられる「WeChat ママグループ」のみを研究対象とする。

【背景と問題の所在】

グローバル化の進行に伴い、国境を超えた移民はますます増加している。その中、女性の国境を超えた移民も増え、半数近くである。国際移住機関(IOM)によると、2015年における国境を超えた移民は2億4400万人に達し、その中女性は48%を占める。今後も、グローバル化の進行に伴い、女性の海外出産・育児はますます重要な課題になると考える。

日本においても、外国人の滞日パターンは単身・短期滞在型から、家族・長期滞在型へと変化し(武田:2007)、日本で出産・育児する外国人が増加している。外国人の子育てに関する関心の高まりとともに、日本においては、在日外国人の母子保健研究の他、外国人の育児ストレスや育児不安などのテーマを取り扱った研究(清水:2002;今村・高橋:2004)も多く見られるようになってきた。また、保健福祉センターや民間団体では多言語での発信といった外国人に対する子育て支援策も充実されつつある。さらに、IT産業の発展とSNSの普及にともない、近年、外国人母親の育児困難やその対処方法も変容している。申請者自身を含め、数多くの日本在住の中国人母親同士が「WeChat ママグループ」を活用し、育児交流をはじめ様々な活動を行なっているのはその一例である。外国人母親、特に初めて出産する外国人母親は、育児経験がないうえに、国情や政策、そして文化や言葉などが異なるため、様々な育児困難に直面している。それに加え、周りに家族や友人が少なく、育児の不安や悩みごとなどがある際に相談できる存在が不足しているため、頼れるものが欲しいと考えている。その頼れるものの一つとして、筆者はSNSに着目した。なぜなら、筆者自身も育児に関する不安や悩みがある際に、「WeChat ママグループ」というSNSに助けられた経

験から、その問題点についても気づいたからである。

外国人母親に配慮した子育て支援体制の整備について、歌川・丹野(2012)は「外国人母親が居住地に左右されずどこからでもアクセスしやすい子育て関連情報の提供システムの再検討」「個別支援にとどまらず集団支援も視野に入れた活動方法の工夫など」「既存事業の再検討」の重要性が指摘している。既存¹の「WeChat ママグループ」の「ネット環境さえあれば、アクセスできる」と「グループチャット機能がある」というような利便性から考慮すると、上述の3点の改善・解決に全部繋がっている。従って、日本在住の中国人育児家庭を支援するのに、中国語での発信だけではなく、「WeChat ママグループ」の活用の可能性について考えることに至った。ただ、「WeChat ママグループ」の可能性を検討するのに、それは「どういう点で頼りになるのか」「どういう点であり役に立たないのか」などについての考察が必要不可欠であることに対して、その関連研究がなされていないのは現状である。そこで、私は子育てにおいて具体的にどのようなサポートが必要なのかについて検討する際に、よく参考されているソーシャル・サポートの概念を用いて、「WeChat ママグループ」の役割と問題点を分析することにした。

	機能	例
①	道具的サポート	家事、移動、子どもの世話に対する実質的な援助、道具や金銭の貸与
②	情動的サポート	子どもの健康や発達に関する知識、アドバイス;海外生活の衣食住に関する情報、及びこれらの情報の確認
③	情緒的サポート	子育て悩みの相談と子育てに対する考え方の肯定から得られる安心感、子育て以外の内容からもたらしたリラックス感
④	交際的サポート	実際の生活でのやりとり、レジャー、娯楽活動への同行、社交的活動
⑤	存在証明の提供	特定の集団(共同体)への帰属意識から得られる安心感や、(パッチャルな社会を含む)社会の中での居場所や存在証明の提供

表1. 本研究に扱うソーシャル・サポートの機能的側面

【研究目的】

本研究は、「『WeChat ママグループ』の利用が日本在住の中国人母親の育児生活におけるソーシャル・サポートの獲得に果たす役割と問題点を明らかにする」を目的にし、2017年5月から12月の間に、日本在住の中国人母親26名に対する半構造化インタビューを実施した他、「WeChat ママグループ」を通じて企画・開催されたイベントへの参与観察も3回行った。それに基づき、日本在住の中国人母親の「WeChat ママグループ」の利用状況とそれに対する評価などの分析を通じて、

¹ 数多くの日本在住の中国人母親は WeChat ママグループを用いて共済している。

表1が表示するソーシャル・サポートの 5 つの機能的側面から、日本在住の中国人母親の「WeChat ママグループ」の利用の役割と問題点を考察してきた。

【調査概要と結果・考察】

その結果、主に以下の 3 点に集約されることが明らかになった。

- ① 今までの在日中国人家庭の育児形態は中国本土と同様な家族・親族共同育児であると述べた研究(鄭:2006)と異なり、「母親中心」の育児パターンがメインとしていることが明らかになった。この点から、日本在住の中国人育児家庭の育児形態が多様である、或いは変容している可能性があることが示唆された。外国人は移り住んだ国によって、母国にいる場合とは違う子育て形態になることが十分ありうる。日本在住の中国人の場合は、その変化に適応するために「WeChat ママグループ」を使い始めた可能性が見えてきた。
- ② 日本在住の中国人母親の「WeChat ママグループ」への依存度は来日年数と在留資格との関係は緊密ではなく、彼女らの社会的孤立度及び子どもの年齢と強く関連していることが示された。「WeChat ママグループ」の利用者のほとんどは就学前の子どもがいる母親であった。また、子どもの発達程度と母親自身の育児生活への適応程度によって、「WeChat ママグループ」の使用時間や使用方法が変化することも判明した。さらに、家族の呼び寄せの有無と「WeChat ママグループ」の利用の有無とは相関しないことも分かった。
- ③ 「WeChat ママグループ」は日本在住の中国人母親の育児生活において、「情動的サポート」「情緒的サポート」「交際的サポート」、そして「存在証明の提供」の機能をしているが、「道具的サポート」の機能をあまりしていないことが明らかになった。また、「WeChat ママグループ」における管理の不足や他機関との連携の欠如、そして日本在住の中国人母親と中国籍以外の母親との疎遠などの問題点もあることが判明した。

【本研究の意義と課題】

今回の調査で明らかになったことから、日本在住の中国人母親の「WeChat ママグループ」の使用状況が把握できたうえ、今後の日本在住の中国人育児家庭への支援策設定における「WeChat ママグループ」の活用を検討する際に、「期待できるところ」や「重視すべきところ」などのような方向性が見られ、理論的な根拠を提供できる。

一方、「WeChat ママグループ」は日本在住の中国人母親のソーシャル・サポートの獲得に多大な役割を果たしているとはいえ、SNS の一種類にすぎない。一つのケーススタディーを行ったと言えるが、日本における様々な文化的背景を持つ母親の共生を図るためには、日本人母親を含め、中国籍以外の母親の SNS の利用状況を明らかにしなければ、SNS の日本における母親のソーシ

ャル・サポートの獲得に果たす効果の全貌を把握したとはいえない。また、修士段階においては、時間の限りがある中、問題解決するために実践検証することができず、提案だけに留まらざるをえなかった。

【参考文献】

- [1] 歌川孝子 2008「在日外国人の異文化ストレスに関する研究の動向—異文化ストレスの実態と地域保健活動の課題—」新潟大学医学部保険学科紀要、9(1), pp.131-136
- [2] 歌川孝子・丹野かほる 2008「在日外国人の異文化圏での妊娠・出産・育児に関する文献検討—1987年から2008年の母子保健研究の分析から—」『第39回日本看護学会論文集』(地域看護)、pp.54-56
- [3] 歌川孝子・丹野かほる(2012)「在日外国人母の子育て支援の現状と課題—市町村保健師を対象とした実態調査から—」『こころの文化』、第11巻第1号 pp.81-87
- [4] 大久保麻矢・玄番千恵巳(2016)「在日外国人の母子保健におけるパートナー支援の必要性—バングラデシュ人夫婦について—」『東京家政大学研究紀要』第56集(1) pp.97-102
- [5] 清水嘉子(2004)「母親の育児ストレス国際比較—韓国(京畿道)・中国(北京)・ブラジル(ブラジリア)・日本(静岡)から—」『母性衛生』第45巻2号 pp.159-169
- [6] 武田真由美(2007)「A県における在日外国人の子育てニーズに関する探索的研究—在日外国人保護者、行政担当者、支援者へのインタビュー調査より—」『社会学部紀要』 Np.103 pp.115-127
- [7] 鄭楊(2006)「在日中国人家庭における「家族・親族の共同育児」の変容—育児援助の事例研究から—」『教育学論集』、Vol. 32, pp. 23-34.
- [8] 橋爪きょう子、小畑秀悟他(2003)「在日外国人女性の精神鑑定例—異文化葛藤要因としての出産・育児—」『犯罪学雑誌』69(2), pp.36-43
- [9] 濱村美和子・狩野鈴子・三島みどり・永島美香(2004)「在日外国人育児の現状について(第1報)—在日フィリピン人の母親の育児ストレスとその対処法—」『島根県立看護短期大学紀要』第10巻、pp.45-52
- [10] 南野奈津子(2017)「移住外国人女性の子育て困難とサポートネットワークに関する研究」『社会福祉学評論』第18号 pp.1-12
- [11] 山中早草(2014)「外国人母親の社会的ネットワーク構築に関する研究：日豪における就学前教育サービスの視座から」(大阪大学人間科学研究科博士論文)
- [12] 山村文(2005)「幼児をもつ母親の生活満足度とソーシャル・サポートの関連性について」『帝京大学心理学紀要』No.9, pp.73-92
- [13] 李節子(2004)「多民族文化社会における小児保健の課題」『日本小児保健協会50周年記念特別号』第63巻 pp.115-117
- [14] Garbarino, J. (1983) Social Support Networks: RX for the Helping Professions, In J. Whittaker, J. Gabarino & Associates. (Eds), Social Support Networks: Informal Helping in the Human Services, New York: Aldine Publishing Company, 3-28
- [15] House, J. (1981) Work, Stress and Social Support, Menlo Park, CA: Addison-Wesley
- [16] Wills, T. A. & Shinar, O. 2000, Measuring Perceived and Received Social Support, In S. Cohen, Underwood, L. G. & Gottlieb, B. H. (Eds.), Social Support Measurement and Intervention: A Guide for Health and Social Scientist, Oxford: Oxford University Press, 86-135
- [17] IOM(国際移住機関)「Global Migration Trends Factsheet 2015」
http://www.iomjapan.org/img/usr/Global_Migration_Trends_2015.pdf
(2017年10月19日アクセス)